

緊急開催!

フィリピン残留日本人が“最後の陳情”のために来日!

「私たちを日本人と認めてください」

訪日代表団からの報告シンポジウム開催!

今もフィリピンに、たくさんの残留日本人が取り残されていることをご存知でしょうか——。

日時:2019年10月30日(水)18時30分~20時30分

会場:主婦会館プラザエフ9階「スズラン」

(18時受付開始)

資料代  
500円

(「四ツ谷」駅麴町口 徒歩1分)

※資料の準備の都合上、事前のお申し込みをお願いいたします(申込先・裏面)

戦前のフィリピンには、新天地を求めてたくさんの日本人が移住していました。フィリピン人女性と家庭を築いた人も多く、たくさんの日系2世の子どもたちが生まれました。地域に根差した日本人コミュニティがフィリピン全土に存在していました。

しかし、戦争勃発とともにこの光景は一変しました。日米の激戦地となったフィリピンは大きな犠牲を強いられました。日本人社会も崩壊し、2世の子どもたちは母親とともにジャングルに逃げ込み、敗戦を迎えました。生き残った父親たちは日本へ強制送還、子どもたちがフィリピンに取り残されたのです。彼らが、フィリピン残留日本人2世です。

反日感情の渦巻く戦後のフィリピンで、日本人であることを隠してひっそりと生きてきた残留者たちは、今、自分たちの日本人であることの確認を求めて声をあげています。しかし、戦火や苦難の戦後で焼失した証拠も多く、無国籍状態のまま放置されてきました。国籍確認の壁が、高齢になった残留者たちの前に高くそびえています。

今も、1000人を超える残留者たちが国籍回復を切望しながらフィリピンで暮らしています。彼らの戦後はまだ終わっていません。平均年齢が80歳を超え、いよいよ残された時間が少なくなった今、日本政府による救済を求めて“最後の陳情”のために来日し、フィリピンで集まった3万4千筆もの署名を、日本で私たちが集めた7000の国会請願署名とともに国会に届けます。滞在最終日の夜、報告を兼ねたシンポジウムを開催します。

残留者本人の直接の声を聴ける機会はまだほとんどありません。ぜひご参加ご出席ください。

(主催:認定NPO法人フィリピン日系人リーガルサポートセンター)

## シンポジウム概要

今回の訪日団の最大の目的は、日本政府に日本国籍回復のための取り組みをお願いすることにあります。戦前戦中のことをはっきりと記憶している2世は高齢になり、年々他界していく状況にあります。自分たちの声を届ける最後のチャンスになるかもしれないという強い思いを胸に、代表団は、この問題に理解を示している超党派の議員たちの助けを借りて、10月29日、国会へ陳情の声を届けにいきます。

残留日本人の無国籍状態を重大な人権問題ととらえ、その法的身分の安定に尽力するフィリピン司法省の担当者も代表団に同行し、フィリピン政府の取り組みについての情報を共有していただく予定です。

高齢化し、いよいよ残された時間が少なくなってきたフィリピン残留日本人の”今”をお伝えし、また、国会行動の結果のご報告の場として、シンポジウムを開催することにいたしました。ぜひ、ご参加ください。

## プログラム(予定)

◎フィリピン残留日本人問題とは◎今回の訪日の目的と成果◎2世からの最後の陳情◎国会請願の報告と今後◎フィリピンにおける無国籍問題の取り組み◎今後の展開について◎会場からの質疑応答



## 代表団メンバー



イネス・マリヤリ  
(日系3世)

フィリピン日系人会連合会会長。祖父は鹿児島出身。ミンダナオ島ダバオ南部で饅頭商人として働いていたが、戦時下に米軍の爆撃を受けて死亡。2世たちは小学校までしか通えなかった。3世であるイネスさんは在ダバオフィリピン日系人会副会長、ミンダナオ国際大学学長などを務め、若手世代の育成にも取り組んでいる。



岩尾ホセフィナ  
(2世)

父は大分出身、パラワン島で建築業で働くかたわら、パンづくりや船修理などにも従事。子どもは4人生まれたが、ホセフィナさん以外は幼少期に死亡。父は戦中にフィリピン警官によって射殺された。ホセフィナさんは山に隠れて戦後を迎える。1980年頃から父の身元を尋ねる手紙を大使館に送るも身元判明につながらず、マニラの日系人組織経由で日本のNPOの聞き取り調査を経て、2015年に身元判明。



メルビン・スアレス  
(比・司法省)

フィリピン司法省の難民および無国籍者保護課の保護官。フィリピン政府は国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) と連携して、フィリピン国内における無国籍者の保護に取り組んでおり、残留日本人2世の無国籍認定を担当している。



寺岡カルロス  
(2世)

父は山口県出身、ルソン島北部バギオで大工業に従事。父は1941年に病死。長兄はスパイ容疑で憲兵に銃殺され、別の兄はフィリピンゲリラに殺された。母と弟妹を避難中の爆撃で失う。戦後、木材業で成功をおさめ、バギオ日系人会理事長、フィリピン日系人会連合会会長、在バギオ日本大使館名誉総領事などを歴任。2003年に旭日中綬章を受章している。



大下恵美子  
(2世)

父は広島県出身。ダバオの新聞社に勤務、母ブエナさんとの間に4人の子をもうけた。戦中に父と生き別れになり残留。戦後は日本人であることを隠して暮らす。母がタバコや果物売り、子どもたちは靴磨きや新聞売りなどしながら、苦学の末、恵美子さんは判事となった。在ダバオのフィリピン日系人会理事長を歴任後、現在は会長。2019年には旭日綬章を受章した。



ジョスエシム・ズニエガ  
(弁護士)

フィリピン日系人リーガルサポートセンター (PNLSC) フィリピン事務所の顧問弁護士として、残留日本人の国籍回復を法律実務面からサポート。

<お申込み> 電話(03-3355-8861)FAX(03-3355-8862)またはネット(右QR)から

お名前

お電話番号

ご住所

メールアドレス



主催・お問い合わせ

認定NPO法人 フィリピン日系人リーガルサポートセンター (PNLSC)

東京都新宿区四谷本塩町4-15 新井ビル3F TEL:03-3355-8861 FAX:03-3355-8862 Mail:info@pnlsc.com URL:www.pnlsc.com